

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

|         |                  |         |           |
|---------|------------------|---------|-----------|
| 事業所番号   | 4071501664       |         |           |
| 法人名     | 財団法人大牟田医療協会      |         |           |
| 事業所名    | グループホームファミーユ     |         |           |
| 所在地     | 福岡県大牟田市野添町20番地19 |         |           |
| 自己評価作成日 | H23年3月29日        | 評価結果確定日 | H23年6月14日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

|   |
|---|
| <p>利用者の意向を中心に対応している。疾患への対応は、同一法人の医療機関とのつながりを持っている。また、入所申し込者への説明を、介護保険の説明から、他のサービス事業の説明まで行い、利用者及び家族へ、経済的負担・介護的負担の軽減ができるよう対応している。利用者・家族が緊急避難的利用(1ヶ月越え程度の入所)も受け入れており、地域で困っている方々への支援を行っている。</p> |
|---|

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a> |
|----------|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

|  |
|--|
| <p>熊本県との県境に近く、レジャー施設の一部が見える住宅地に立地する事業所は、民家風の建物である。今年で開設6年目が過ぎ、利用者の高齢化に伴い、外出、利用者を交えての食事作りや畑作り等が難しくなっている。この状況を踏まえ、昨年度は、利用者の状況を勘案しながらの外出や畑作業などへ取り組んでいる。また、月1回の窓口での支払いを義務付ける事により、家族と利用者との馴染みの関係性の維持に努めている。母体病院やかかりつけ医、専門病院等への受診対応を事業所で担っており、利用者・家族に大きな安心感を与えている。利用者の生きがいや思いに着目した介護計画の作成と個々の利用者に寄り添うケアへの取り組みが期待される事業所である。</p> |
|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                                    |  |  |
|-------|------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 介護サービス評価センターふくおか |  |  |
| 所在地   | 福岡市中央区荒戸3丁目3番39号 福岡市市民福祉プラザ        |  |  |
| 訪問調査日 | 平成23年5月9日                          |  |  |

## 自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

| 自己              | 外部 | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|-----------------|----|---|---|---|-------------------|
|                 |    |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>理念に基づく運営</b> |    |   |   |   |                   |
| 1               | 1  | 理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている   | のんびり、ゆったりを基本に利用者が暮らせるよう管理者と職員はその理念を共有して実践している。                                | 玄関ホール及びフロア内へ理念を掲示し、日々の業務を通じて、理念の説明・指導、確認が行われている。                        |                   |
| 2               | 2  | 事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している   | 隣近所の人々との挨拶、気軽に立ち寄れるような雰囲気があり、施設の敷地を道路代わりに使用される住民もおられる。雑巾や物品を、施設に持って来られることがある。 | 地域交流センターで行われる行事や、法人母体である病院で行われる夏祭りへの参加、ボランティアの方の来訪など、地域住民との交流への取り組みがある。 |                   |
| 3               |    | 事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議には地域の民生委員の方々が多く参加され認知症についての理解を深めている。また、病院の薬剤師の講演や消防署の講演等で、情報の共有化を図っている。 |   |                   |

| 自己 | 外部 | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|----|--|---|--|-------------------|
|    |    |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 4  | 3  | 運営推進会議を活かした取組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている                                       | 会議で利用者の状況報告、サービス内容、外部評価の報告し意見や助言を聞きながら、サービス向上に活かしている                | 関係者を招いて、2ヵ月に1度の開催がある。事業所からの状況・活動報告の他、基本的な薬の効用について薬剤師の方を招いての講話、年度目標、防災、外部評価等についての質疑応答などが行われている。 |                   |
| 5  | 4  | 市町村との連携<br>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる  | 運営推進会議に市職員、地域包括支援センター・民生委員等参加してもらっている。                              | 運営推進会議に、行政担当職員や地域包括支援センター職員の参加がある。また、あんしん介護相談員の方の来訪、行政主催の勉強会への参加など、連携への取組みがある。                 |                   |
| 6  | 5  | 身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ミーティング時やそのときの状況に応じて身体拘束をしないケアを理解してもらっている。また、委員会にて、情報の共有や考え方等話をしている。 | 事業所として、身体拘束廃止委員会を立ち上げ、およそ年4回の委員会活動を通じて、身体拘束全般について検証・確認が行われている。                                 |                   |
| 7  |    | 虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている                                      | 高齢者虐待防止委員会で、検討し、虐待の捉え方や対応を正しくいかいできる取り組みを行っている。                      |  |                   |
| 8  | 6  | 権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している                                 | 権利擁護や日常生活支援事業について、説明を行っている。   | 制度等についてのパンフレットや資料の閲覧、読み合わせを通じて、職員への理解の浸透を図っている。  |                   |
| 9  |    | 契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている  | 契約や解約時には、細かな説明を行うように心がけ、理解していただけるように努力している。                         |  |                   |
| 10 | 7  | 運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている   | 家族と意向や思いを語る場を積極的に図り対応している。  | 家族面会時の声かけ、毎月のホーム便りの送付、その都度の連絡等を通じて、家族の意見や思いの表出に努めている。  |                   |

| 自己                       | 外部 | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |  |
|--------------------------|----|--|--|--|--|
|                          |    |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 11                       | 8  | 運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている   | 勤務の調整や、利用者の状況に応じ職員との話し合いで人員確保を行っている                    | 申し送りノートの回覧、その都度の伝達及びミニカンファレンス等を通じて、職員の意見の聴取と検討・対応が行われている。  |  |
| 12                       |    | 就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている   | 向上心を持って、職務を行えるよう、環境整備に努めている。                           |  |  |
| 13                       | 9  | 人権の尊重<br>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。<br>また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 性別、年齢に関係なく採用している。社会参加や自己実現の権利の保証については勤務に支障の無いことが前提である。 | 法人として、勤務先を明示しての募集である。職員の募集・採用にあたっては、何らの制限は行われていない。職員の勤務年数に応じて、各種資格取得の奨励、職員の家庭状況等に配慮した勤務形態など、働きやすい環境作りへの取組みがある。 |  |
| 14                       | 10 | 人権教育・啓発活動<br>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる  | 人権教育、啓発活動の取り組みを行っている                                   | 外部で行われる各種研修への参加と受講報告会を通じて、認知症高齢者の人権研修・啓発活動への取組みがある。  | 職員の基本的資質である人権意識の喚起のために、行政等で行なわれる講話への参加やマスメディア等日常の中で取り上げられる話題を活用しての勉強会など、さまざまな機会を利用した取組みに期待します。 |
| 15                       |    | 職員を育てる取組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている   | 研修会の参加を行っている。資格取得については、講習会日程調整を行い、支援している。              |  |  |
| 16                       |    | 同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている  | 他のグループホーム管理者と、利用者の対応や技術について、意見交換を行っている。                |  |  |
| <b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |    |  |  |  |  |
| 17                       |    | 初期に築く本人との信頼関係<br>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている   | 本人、家族の要望等を聞き信頼関係を重視して行っている。                            |  |  |

| 自己 | 外部 | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|----|--|--|---|-------------------|
|    |    |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 18 |    | 初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている        | 殆どが、家族の意向にて入所される方が多く、見学に来られ納得される場合もある。本人が不安を持ち来られる為、本人、家族かかわりを多く持ち困っていること、要望等には話を良く効くようにしている |   |                   |
| 19 |    | 初期対応の見極めと支援<br>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている    | 他の事業所からの情報を確認し、本人、家族の状況を踏まえ行っている   |   |                   |
| 20 |    | 本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                       | お互いに助け合いながら信頼関係を築くようにしている  |   |                   |
| 21 |    | 本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている        | 本人の思い、家族の思いなどを聞いたりしながら本人の思いを家族に伝えたりして絆が途切れないように努力している。                                       |   |                   |
| 22 | 11 | 馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                    | 親戚の人がよく来られる。   | 利用者にとって一番の馴染みである家族との関係性の維持のため、最低でも月1度の家族会に取り組んでいる。また、得意な踊りの披露など、可能な限り利用者の趣味活動への支援が行われている。 |                   |
| 23 |    | 利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                | 利用者の思いを大切にして、利用者同士のつながりを支援している。  |   |                   |
| 24 |    | 関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所された利用者の家族が相談に来られる。   |   |                   |

| 自己                              | 外部 | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |   |
|---------------------------------|----|---|---|--|---|
|                                 |    |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容   |
| <b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |    |   |   |  |   |
| 25                              | 12 | 思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 本人が自由気ままにされるようにしている。                                | 日々のかかわりを通じて、本人の思いや意向を把握し、申し送りやミニカンファレンス時を利用して、情報共有に努めている。  | 思いを発することの少ない利用者の更なる思いや希望等の把握に努め、センター方式の一部記録様式の活用と内容の充実を図り、より一層の利用者の心に寄り添うケアへの取組みに期待します。 |
| 26                              |    | これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 生活歴や嗜好に応じて生活スタイルを出来る限り尊重し存続できるようにしている。              |  |   |
| 27                              |    | 暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 心身の状況に応じて対応対応している                                   |  |   |
| 28                              | 13 | チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 理解できる利用者には本人の思いと家族の意向、スタッフの意見を聞きながら介護計画を作成している      | 計画作成担当者は、申し送りやミニカンファレンス、その都度の伝達等を通じて職員個々の気付きを集約している。3ヶ月毎及び状況変化時の評価・見直しと、更新時・状況変化時の介護計画の再作成が行われている。 |   |
| 29                              |    | 個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 日々の様子をスタッフ全員で共有しながら工夫し実践している                        |  |   |
| 30                              |    | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 事業所の多機能性を活かした支援を行っている。介護、及び相談援助。同一法人内の事業所の連携を行っている。 |  |   |
| 31                              |    | 地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                         | ボランティアで話相手になど行ってもらっている。民生委員、消防は運営推進会議で情報頂いている       |  |   |

| 自己                           | 外部 | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |   |
|------------------------------|----|---|---|---|---|
|                              |    |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容   |
| 32                           | 14 | かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                 | 訪問看護、南大牟田クリニック看護と協働に緊急事態に対する対応、週1回の健康チェックを行っている   | 契約時に医療・受診について説明し、利用者・家族が入居後の主治医を選択している。事業所協力病院、利用者かかりつけ医、専門科への受診など、全て事業所対応にて受診支援を行っている。               |   |
| 33                           |    | 看護職員との協働<br>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                      | いつもと違うような変化が生じた場合は管理者に報告同一系列の訪問看護、クリニック看護師の報告受診する |   |   |
| 34                           |    | 入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院先の看護師、ソーシャルワーカーとの情報交換はしている。本人との面会も行っている         |   |   |
| 35                           | 15 | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 医師の指示の下で訪問看護を利用しながら行っている                          | 契約時にあらかじめ対応できる方針を説明し、重度化における対応同意書を得ている。利用者の身体状況に応じて、家族の意向に沿っての支援が行われている。                              | 人生をどう生き、どう送るのかの決定の権利は利用者にあります。日々のかかわりを通じて、利用者の思いの把握と情報共有に努め、利用者の思いを尊重した支援への取組みを期待します。 |
| 36                           |    | 急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている   | 急変時の対応マニュアルに沿って対応している                             |   |   |
| 37                           | 16 | 災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている   | 防災訓練実施。防災計画・防火管理者設定済み。地域住民の協力体制は、運営推進会議にて打ち合わせ済み。 | 消防署職員の立会いによる、年2回の避難訓練の実施がある。非常通報装置の利用の仕方について指導を受け、手順を明確に記した紙を貼るなどの取組みがある。運営推進会議時に、防災についての意見交換が行われている。 |   |
| <b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |    |   |   |   |   |
| 38                           | 17 | 一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている  | 一人ひとりプライバシーを保持している。                               | 利用者の言動や様子を観察した上での穏やかなやさしい声かけが行われるなど、理念を意識した対応が見受けられた。   |   |

| 自己 | 外部 | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|----|---|--|---|-------------------|
|    |    |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 39 |    | 利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 理解して納得できるよう説明している                                  |   |                   |
| 40 |    | 日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 業務優先にならないよう一人ひとりのペースを大切にしている                       |   |                   |
| 41 |    | 身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 本人、家族と話し合いにて希望に応じて行っている                            |   |                   |
| 42 | 18 | 食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 利用者の中には好き嫌いがある。魚、肉など嫌いな人には魚とは分らないように工夫をしたりしている。    | 職員による、旬の食材や季節を意識したメニューの作成と調理が行われている。調理の際の音や匂いが利用者の五感へ働きかけ、食事が楽しくなるような取組みがある。            |                   |
| 43 |    | 栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 毎日の食事摂取量、水分量のチェックを行い一日1000ml以上を目安に行っている。           |   |                   |
| 44 |    | 口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                   | 一人ひとりの能力に応じて行っている。                                 |   |                   |
| 45 | 19 | 排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている   | 時間毎に出来るだけトイレに誘導したり尿意、便意が分からない場合は2～3時間毎にオムツ確認を行っている | 利用者毎の排せつパターンを把握し、時間や間隔、利用者の様子等から声かけ・誘導が行われている。1名を除く他の利用者は、日中リハビリパンツで過ごすなど、自立に向けた取組みがある。 |                   |

| 自己 | 外部 | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|----|---|--|---|-------------------|
|    |    |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 |    | 便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる   | 水分摂取量、ヨーグルト、野菜など、室内散歩を心がけている。それでも便秘の場合は下剤、浣腸などで対応                        |   |                   |
| 47 | 20 | 入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている                           | 曜日は決めているが本人が入浴を拒否される場合は後日に入浴を促す  | 週2日の入浴を目途に、入浴日を決めているが、無理強いすることなく利用者の希望に応じた支援がある。好みのシャンプー類の使用も可能である。         |                   |
| 48 |    | 安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している  | 利用者の状況に応じて居室でベッドに臥床して本を読んだり、自由に過ごしていただいている                               |   |                   |
| 49 |    | 服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている   | 処方箋を見ながら用法、一人ひとりの薬を毎回ごとにつけている為重要な血糖、血圧、下剤等は特にきをつけている                     |   |                   |
| 50 |    | 役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                              | テレビを見るのが好きな人、居室で一人で過したい人、何もしたくない人、側居にいて話をするのが好きな人、それぞれである為、その人によって対応している |   |                   |
| 51 | 21 | 日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 家族との外出が、出来ている。時折、利用者スタッフで買い物に出ている。                                       | 花見、動物園見学、母体法人で行われる夏祭りや地域交流センターで行われる行事への参加、日々の散歩など、利用者の状況や希望等に応じた外出への取組みがある。 |                   |
| 52 |    | お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している                              | お金の所持はされない。  |   |                   |



| 自己 | 外部 | 項目  | 自己評価                                     | 外部評価   |                   |
|----|----|---|--|--|-------------------|
|    |    |   | 実践状況                                     | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 |    | 電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | ファミリーユダよりを、毎月送付している。情報提供を行っている。          |  |                   |
| 54 | 22 | 居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 天井は高く圧迫感が無く住みよい環境になっている。玄関に季節の花などを飾っている。 | フロアー内は自然採光を取り入れ、天井に設えた扇風機からの風が心地よく、快適な空間であった。思いおもしろい場所で、ゆっくりと過ごしている利用者の姿から、居心地のよさが伺えた。 |                   |
| 55 |    | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 自分の思いのままに仲の良い者同士の居場所できつろいでもらっている         |  |                   |
| 56 | 23 | 居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 家族と相談しながら、持ち物や家具等を活用している。                | 居室には、写真やテレビ、生花、家具、衣装ケースなど、馴染みのものが持ち込まれており、ゆっくりと過ごすことができるような配慮がある。                      |                   |
| 57 |    | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している  | 手すりの設置、段差なし、センサーマット設置し、安全、安心できるよう配慮している。 |  |                   |